

やまびこ 特別号 377号



今年の夏 ベストセラー作家・堂場瞬一先生が鶴岡に！

近年、夏にかけて記録的な猛暑が続いており、2025年には過去最多となる全国延べ30地点で、40℃以上の日最高気温が観測されました（気象庁調べ）。今夏も平年より気温が高くなる見通してあり、熱中症への警戒が呼びかけられています。

そんな暑い夏こそ、室内で創作活動に取り組んでみませんか。鶴岡市立図書館では、「山形小説家・ライター講座鶴岡出張講座」の開催に向け、自作の小説・エッセイを募集しています。今回の講師は、堂場瞬一先生です。本館では、堂場先生の著作をはじめ、小説・エッセイ創作に役立つ資料もご紹介していますので、ぜひご利用ください。たくさんの方の受講と意欲あふれる作品をお待ちしております！

《山形小説家・ライター講座 第11回鶴岡出張講座》

- ・日時 8月23日（日曜）14:00～16:00頃
 - ・講師 堂場瞬一氏（ベストセラー作家） ・講師兼司会 池上冬樹（文芸評論家）
 - ・作品提出締切 8月9日（日曜）
 - ・定員・申込 先着150名
- 図書館に電話 または 電子申請（二次元コードからアクセスできます）

※作品の規定、提出方法等の詳細は、図書館で配布しているチラシをご覧ください
作品提出は受講の条件ではありません。聴講のみの参加も歓迎します



図書館にある「小説・エッセイ創作」関連本

- 『キャラクター設定で使えるクリエイターのための職業と組織事典』秀島 迅(2025)
- 『シナリオ・センターが伝える14歳からの創作ノート』新井 一樹(2024)
- 『自分で考え、自分で書くためのゆかいな文章教室』今野 真二(2019)
- 『文章を読む、書くのが楽しくなっちゃう本』QuizKnock／著(2020)
- 『朝日新聞記者の書く力』真田 正明(2022)
- 『新・時代小説が書きたい!』鈴木 輝一郎(2020)
- 『超タイトル大全』東 香名子(2024)
- 『旅のエッセイ教室』辻 真先(2004)
- 『創作講座 料理を作るように小説を書こう』山本 弘(2021)
- 『言葉の舟』ほしお さなえ(2024)

=7月の記念日=

ウルトラマンの日（7月10日）

1966年7月10日、『ウルトラマン』第1話の放送開始を1週間後に控え、「ウルトラマン前夜祭ウルトラマン誕生」という番組PRイベントが放送された。この日、初めてお茶の間のテレビにウルトラマンが登場したことを記念して制定された。同シリーズは、今年60周年を迎える（円谷プロ公式サイト）。

・『特撮黄金時代 円谷英二を継ぐもの』八木毅（2022）

令和8年7月1日発行

鶴岡市立図書館・鶴岡市郷土資料館
〒997-0036

鶴岡市家中新町14-7

（図）TEL：25-2525（郷）TEL：25-5014

FAX：25-2526

◎小説・エッセイ

- わたしを庇わないで（石田 夏穂）
- カフェ保健室（吉野 万理子）
- アノマリーの追憶（知念 実希人）
- 謎の香りはパン屋から 1・2（土屋 うさぎ）
- ファイア・ドーム 上・下（辻村 深月）
- 本好きの下剋上
ハンネローレの貴族院5年生 3（香月 美夜）
- 海霧（馳 星周）
- くがいの聲（阿泉 来堂）
- 一滴の沈黙（相場 英雄）
- 真夜中の見張り番（ケビン小竹）
- それでも世界は回っている 3（吉田 篤弘）
- 女じまい（阿川 佐和子、伊藤 比呂美）
- 私的パワーワード辞典（川添 愛）
- カイロの死せる精霊（P. ジェリ・クラーク）
- 日本の太陽の根源（ボリス・ピリニャーク）

◎実用書

- ひとことIT用語図鑑400（加藤 一）
- スマホで100倍楽しくなる！
50歳からの推し活入門（劇団雌猫）
- 山崎先生。デジタル・アーカイブ
って何から始めればいいのか？（山崎 博樹）
- 名無辞典（シモムラ）
- るるぶ山形 '27

- 消費者トラブルから認知症の人・
障害のある人を守る本（全国消費生活相談員協会）
- 小さな化学式の図鑑（ガリレオ工房）
- 生態がよくわかるクラゲ図鑑（鶴岡市立加茂水族館）
- 世界が驚愕した江戸の医学（齋藤 勝裕）
- イラストでつながる薬のはたらき（はっしー）
- ヘンな道路標識（後藤 欣樹）
- お店の解剖図鑑（高橋 哲史）
- ドローンを仕事にする（名倉 真悟）
- 探る！海の職人技クレーン船
解体新書（田中 淳夫）
- 手縫いでつくれるげっしりの
ぬいぐるみ（ばんばばえりあ）
- ズボラなせいろ蒸し（らむ）
- これならできる！今日からはじめ
るプランター菜園（大橋 明子）
- MINIATURE LIFE 365（田中 達也）
- デザインの最強原則（米倉 明男）
- 動物園&水族館ぬいぐるみ図鑑（木村 悦子）
- 3ステップでみるみる速くなる！
親子1日10分かけっこエクササイズ（安部 たけのり）
- 杉山アナのアンチ巨人、大鵬、
卵焼き（杉山 邦博）
- なんとなくわかる茶の湯（宇田川 宗光）
- 東大合格者が身につけた一生
使える「読み方スキル」（市野瀬 早織）

◎児童書

- 12歳までに知っておきたい
ピンチを救うぼくらの憲法（木村 草太）
- 出合ったらどうする？野生の
ほ乳類 1～3（山崎 晃司）
- みんなが知りたい！ダム
のひみつ（福手 勤）
- まゆとごちそう春夏秋冬（富安 陽子）
- ひまわり食堂の忘れ物（西村 友里）
- やらなくてもいい宿題 2（結城 真一郎）

◎絵本

- おにぎりをおかあさんに（あいはら ひろゆき）
- だあれのめ？（accototo）
- よーいドテッ！（大塚 健太）
- くまださんちのおひっこし（オームラ トモコ）
- やさいぐぐぐん（金内 織恵）
- アズッキーとニャック ヘビにあらう（かさい まり）
- あたまにのったタコ（たしろ ちさと）
- ようかいむらのアイスクリームや
さん（たかい よしかず）
- ねこまたさんとぬりかべさん（富安 陽子）
- まゆとそらとぶくも（富安 陽子）
- 10びきのおばけとおきやくさま（にしかわ おさむ）
- おとまりペンギン（ねじめ 正一）
- ギョウザくんとシュウマイちゃん（村上 しいこ）
- パンダのおさじとぱんだっこ
ちゃん（柴田 ケイコ）

やまびこ号の次回巡回日は

月 日です

新着図書は上記以外にもありますので、
お気軽にお声がけください。
新刊は、ホームページでも
ご覧いただけます。



鳥刺しのこと (1)

維新史取調べのために、宮内省が主導して明治二十五年(1892)に史談会という団体が発足するが、この史談会が編纂した『史談会速記録』の第二十四輯の中で、庄内士族の荒賀直哉は藩校致道館在学の頃を「学校に這入ります書生でも、月に六度は野行をせねばならん」と語っている。この「野行」(または「野合」「野出」とも呼ぶ)に伴う、個人的あるいは集団的狩猟のことを庄内藩では総称して「殺生」と呼んでいた。この「殺生」のうち、特に藩士たちが熱狂したのは「磯釣り」であり、今回紹介する「鳥刺し」となる。

「鳥刺し」については、『日本国語大辞典』(小学館 1975 年)では、「細い竹竿などの先端に鳥糞(もち)を塗り付け、小鳥を捕えること。また、その人。特に、小鳥を捕えてそれを売るのが業とした人」とある。その職種としての起原は古く、室町後期に成立したと伝えられる「三十二番職人歌合」の中では「楽人」「樵夫」「漁父」と同じように、当時は職人として認識されていた。そもそも「鳥刺し」とは、天皇や将軍・大名といった、ごく限られた階級の娯楽である「鷹狩り」で使用する鷹を飼育するため、エサとなる小鳥を捕獲するために編み出された技かと思われる。それが室町期には職種となり、さらに近世期になると、これに従事する者たちは「餌刺(指)衆」と呼ばれ、藩の支配に組込まれた。庄内藩でも藩主の鷹狩りに用いる鷹を飼育し、調教する「鷹匠」という役職があり、その下に鷹の餌を調達する「餌刺」が置かれている。「御給人拝領屋敷図」(木村家文書)によれば、荒町(現在の山王町)の東側界限に十軒の「餌刺」が住んでいたことが確認でき、その区域は当時、鳥居河原餌刺町と呼ばれていた。

鑑みるに、「鳥刺し」と「餌刺し」については行為が同じであるが、それが娯楽か、鷹の餌を獲る仕事か、ということで区別されることになる。ちなみに、江戸幕府では宝永七年(1710)6月18日に「一、頃日江戸並近辺ニテ鳥をさし候ものこれあるよし相聞候、前々より御餌差之外、江戸近辺には鳥指(刺)候儀、御停止ニ候」(「徳川禁令考」四十四)という通達を出しているが、この場合は娯楽という意味での「鳥刺し」だったと言える。

さて、前置きはこのくらいにして、本編に入ろう。まずは、当地に伝わる鳥刺しについて、今から二十年ほど前、劇団麦の会主宰の山崎誠助氏の御宅にお邪魔し、お話を伺ったことがある。大正元年(1912)生れの山崎氏は実際に鳥刺しを経験した最後の世代であり、その時お聞きした話は『鳥刺しの話』(鶴岡市教育委員会 2007 年)としてまとめている。以下、この本を基に記述していくこととする。

まず、鳥刺し用の竹竿についてだが、長さは三間(5.4メートル)であり、これは一本竿ではなく、竿尻から一間の位置で二間の竿を逆継ぎしていたという。これは「しなり」を要求される釣り竿と大きく異なる特徴で、鳥刺しの竿には剛直さが必要だったわけである。この部分が本体とすると、竿先には篠竹の先端から三尺(90cm)程度に切ったものを真鍮の輪で固定させており(この部分を「目つぶし」と呼ばれていた)、その「目つぶし」にモチノキから取れる粘着力の強い糰(モチ)を塗り、ここに獲物を付着させるように鳥を目掛けて竿を突いていくことになる。ちなみに、糰は「糰筍」という容器に入れて携行し、腰には「手籠」と呼ばれる竹製の籠を下げ、獲った鳥は首を捻って絶命させてから、ここに入れていた。

また、竿以外にも、鳥刺しの大事なアイテムとして、「竦(スクミ)」という笛がある。これは天敵であるハヤブサやハイタカなどの猛禽類が近づくと鳥たちの間で警戒の鳴き声を発して竦んでしまう(動けなくなる)習性を利用し、その鳴き声も模した音を発する笛を「竦」と名付けたようだ。鳥刺しを簡単に説明すると、枝に止まっている小鳥を竦の笛の音で動けなくしてから、下からサッと竹竿で突いて、トリモチに粘着させる、ということになる。まさにその動きが鎗術にも通じるということで、例えば、文政十三年(1830)3月20日の夢極流鎗術稽古では「鳥汁会」と称し、師範である土屋正蔵はじめ、二十人の門弟が参加し、仕留めた七十余羽の鳥を集め、盛大な宴会を催している(「野合日記」秋保家文書)。

ところで、先頃発刊された『大泉叢誌』第九集(致道博物館 2026年)の中に鳥刺しの極意書ともいえる「竿繰玄篇」という一編が掲載されている。筆者は渋谷六郎右衛門という人物であり、寛政十年(1798)正月の日付で門人の西堀玄融が序文を書いている。ここには鳥の居場所、竿の持ち方、突き方、スクミ、過去の成果など、鳥刺しに関する技術の粋が披露されており、さらに「付録」として、門人たちの補足事項まで記されている。ここまで来ると、もはや「鳥刺し」という武芸と言えよう。

それに比べると磯釣りは、それなりの技術は必要だが、ビギナーズラックで大物を釣り上げることはよくあることである。

一方、鳥刺しは技術がなければ、一羽も仕留めることができない。そういった意味でも、鳥刺しは奥深い嗜みだった。ただし、それを仕事にしていた餌刺衆たちにとっては、成果を挙げなければ鷹のエサが無くなるので、嗜みどころではなく、死活問題だったことになる。この話、次回も続きます。

(今野 章)



「夢幻録」(致道博物館所蔵)

夏のイベントのお知らせ

🌞 その1 図書館とであう海の本 期間:7月1日(水)~31日(金)

7月は「海の日」があり、波の音や海風が気になる月です。

一般社団法人 3710 ラボ(みなとらぼ)が日本図書館協会と共催で全国の図書館が選ぶ海の本を募集する企画があり、当館も参加しています。

提案する本は10冊まででしたが、10冊に絞るのは大変でした。そこで、7月に本館で当館が選んだ海に関連する本を、選んだ理由を添えて展示します。あわせて全国の図書館が選んだ本の一部も展示します。ぜひ手に取ってみてください。

※今回は次の四つのテーマに沿って当館の司書たちが本を選びました。

- 「子ども向けの海の本」
- 「海をめぐるフィクションの本」
- 「海を読み解くノンフィクションの本」
- 「図書館が所在する地域とつながりのある海の本」

🌞 その2 じどうしつ 夏のえほんまつり 期間:7月18日(土)~8月23日(日)

①夏のおはなし会 日時:8月2日(日) 10:00~

②ブックビンゴ!!

全部のマスが埋まったら図書館の人に渡してくださいね、ちょびっとプレゼント有。

🌞 その3 手づくり絵本・紙芝居コンクール 募集:7月22日(水)~8月26日(水)

夏の思い出や好きな昔話、
自分の創造したおはなしなどを題材にしよう!

※個人でも、グループで作っても OK! 家族での制作・応募も大歓迎!

詳細は、後日配布の募集チラシをご覧ください